

報告書

【概略】

派遣目的：福島第一原子力発電所事故による放射性物質飛散による汚染について、主に避難住民を対象とした放射性物質による外部汚染のスクリーニングに対する支援要請に対して、医師、診療放射線技師等からなる支援班として協力を行う。それにより、避難住民の放射線被ばくに関する不安を軽減する。さらに、外部汚染や環境汚染に対する独自の計測を行う。

派遣期間：平成 23 年 3 月 17 日～20 日

派遣場所：福島県災害対策本部、川俣高校、勿来高校

派遣メンバー：伊丹純（医師・第一種放射線取扱主任者）、跡田直利（診療放射線技師）、木村保夫（事務）

派遣環境：福島第一原子力発電所は、注水作業の進捗により一定程度の小康状態が得られていると思われるが、今後さらに放射性物質が排出される可能性もあり予断は許さない状況である。また、原子力発電所から 20km 圏内の避難、30km 圏内の屋内退避が出ている状況で、数多くの避難者が県外にまで避難する状況となっており、パニックを予防するためにも正確な放射線の知識をもった放射線科医と診療放射線技師が派遣されることは非常に意義があった。

班員滞在環境：幸いにして断水下でも営業する宿泊施設に宿泊することが可能であった。ガソリンなどは緊急車両として優先的に割り当てされた。

派遣業務：

- ・基本的に福島県災害対策本部の指示に従い、放射線サーベイの拠点に割り振られ、避難住民を主な対象にして、放射線検知器により外部汚染の有無の検査を行う。その際、福島県の作成した基準に従い、100000 cpm 以上の汚染を示す住民については、外部被ばくによる除染が必要であると判断した。
- ・毎日 8 時および 20 時に対策本部においてミーティングが行われ、分担施設が割り振られる。

- ・3月18日川俣高校体育館において福島県技師会と合同で445名の住民・4匹の犬のサーベイを行った。

- ・3月19日勿来高校体育館において、当班単独で445名の住民のサーベイを行った。

- ・3月20日午前中川俣高校体育館において、福島県衛生保健協会と合同で230名の住民・3匹の犬のサーベイを行った。

その間、13000cpm以上100000cpm未満の値を示した住民24名、100000cpm以上の値を示した住民4名であったが、その4名はすべて外套を脱ぐ、汚染部位を水でひたしたタオルでぬぐうなどの処置で汚染が除去された。サーベイを終了した住民には、福島県災害対策本部で発行されたスクリーニング済証を署名して交付した。

問題：住民の避難の際にはスクリーニング済証が必要であるなどとのデマから、後追いのような形で、スクリーニングサーベイが終了した住民にはスクリーニング済証が発行される形になってしまった。また情報が錯綜し、本部で割り振られたスクリーニング拠点に赴くと実際にはスクリーニング対象者がいないなどという事態もあったようである。また、災害救援医療チーム（いわゆるDMAT）がスクリーニングを担当していることが多かったが、実はこのスクリーニングには、放射線被ばくに精通した放射線科医と診療放射線技師のチームがもっとも効率的であり、住民に詳しく説明し、安心させパニックを防ぐことに貢献できると思う。

このような非常時にあっても、礼儀正しく、心優しい福島県の人々のことを考えると、スクリーニング中に一度ならず涙がでてとまらなかった（花粉症ですとってごまかせました）。一日も早い原発事故の収束と福島県の日常生活の回復を心から祈っています。